

ASKはみなさまからのご寄付をもとに活動を行っています

ASKが支援した活動の一部をご紹介します

一般助成 ▶ 現代美術

冬木遼太郎 フィリピンのヴァルガス美術館で個展「Kayuminonai」を開催



冬木遼太郎 個展「Kayuminonai」展示風景
会場：UP Vargas Museum

映像や立体など、独自の感性で社会を鋭くとらえ、自身の「芸術」として発表してきた冬木遼太郎さん。2024年夏、マニラ近郊にあるヴァルガス美術館で個展「Kayuminonai」(かゆみのない)を開催。この美術館は、戦前戦後に活躍した政治家ホルヘ・B・ヴァルガスが創設したもので、彼は戦時中、日本軍に協力したとして東京の巣鴨拘置所に収監されます。冬木さんは、ヴァルガスが収集した館の所蔵品が、その内部からモノとして誘引する緊張、発見、啓示への誘いを「かゆみ」ととらえ、また「かゆみ」は肌や人種を想起させるものでもあるとして、その「意図的な消失」を意識させるような形で、収蔵品と自作を組み合わせた展示を行いました。そうした彼の視点のもとで、戦争に翻弄された二国間の関係や美術館が社会に対して負う意味などを浮かび上がらせました。

一般助成 ▶ 現代美術

堀奏太郎 個展「レッドブラッド・アンド・ブルーソウル」が京都で開催



堀奏太郎 個展
「レッドブラッド・アンド・ブルーソウル」展示風景
会場：alternative space yuge(京都)

スバクタクフルなハリウッド映画やサブスクで視聴する海外ドラマなど、私たちは、日々それらが放つ強烈なイメージにさらされています。画家の堀奏太郎さんは、意識の奥深くまで浸透し、私たちを惹きつけて止まないそうした「アメリカン」な視覚と向き合い、絵画を通してその表出を試みます。近年、彼が手掛けるのは、そうした視覚に宿る「男性性」。マッチョで、巨大で、ときには都市さえも破壊してしまうロボットを、平面の絵画では物足りないとはばかりに、ハリボテの立体絵画として現出させ、それと対峙する自分自身を確認します。2024年の個展で見せた作品は、映画トランスフォーマーに出てきそうなロボットを細部に至るまで丹念に「描い」て立体化させたもの。その立体物ならではの視覚的なインパクトは、その場にいる者を圧倒する力に充ちていました。

一般助成 ▶ 現代演劇

コトリ会議 近未来を描いた現代劇「おかえりなさせませんさい」伊丹公演

2007年に旗揚げされた関西を代表する劇団、コトリ会議。座付き作家・山本正典さんの戯曲の上演を中心に、「一生懸命になりすぎてなんだか変なことになっちゃった人たちの生活をところかまわず描くこと」(劇団WEBページより)をモットーに活動しています。2024年12月に伊丹で上演した奇妙な題名を持つ作品「おかえりなさせませんさい」は、戦争に明け暮れる未来社会を舞台に、軍の召集を逃れるためツバメと融合した人造人間となるべきか否かの葛藤を描く、SFヒューマンドラマ。合体されるツバメの記憶、人間の尊厳、そして家族への愛が、極限の選択を迫られる中で失われ、また逆に意味を持つ様を描きます。その究極の状況を通して、戦争の悲惨さと無力感を、コミカルな描写とともに浮き彫りにした作品となりました。本作は第3回関西えんげき大賞最優秀作品賞を受賞しました。



コトリ会議「おかえりなさせませんさい」公演風景
会場：伊丹アイホール Photo：河西沙織(壹劇屋)

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

原由莉子ウィーン世紀末シリーズ Vol.8 「浄夜～シェーンベルクの肖像」

ウィーン国立音大大学院にてピアノを学び、関西を拠点にオーケストラと協演するなど注目を集めるピアニストの原由莉子さん。ウィーンから帰国した2020年から、ウィーン世紀末の音楽をもっと知ってほしいとシリーズで始めたレクチャーコンサートの8回目が、兵庫県立芸術文化センターで開催されました(2024年12月4日)。今回のテーマは生誕150周年を迎えたシェーンベルク。「話したいことがありすぎて」と時間オーバー気味にシェーンベルクの音楽と人物像について熱く語りながら、その合間に演奏を行うスタイルで進みます。後半はメインピースとなるシェーンベルクの《浄夜》を、ピアノ三重奏にて、若手気鋭のヴァイオリニスト渡辺紗蘭さん、注目のチェリスト北垣彩さんを交えて演奏し、会場からブラボーの声がかかるほどの喝采を浴びました。



原由莉子ウィーン世紀末シリーズ Vol.8 演奏風景
会場：兵庫県立芸術文化センター小ホール Photo：芦河博

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金 ▶ クラシック音楽

吉田さや佳「クラリネットリサイタル mit innigkeit」の開催

クラリネット奏者・吉田さや佳さんによるリサイタルが、ザ・フェニックスホールで開催されました(2025年1月26日)。13歳からクラリネットをはじめた吉田さんは、音大ではなく佐賀大学経済学部の出身。留学をきっかけに音楽が持つ言葉によらない意志の疎通を実感し、プロになる決意を固めたとか。現在は関西を拠点に、ソロ活動のほか、各地の一流オーケストラに客演奏者として招かれるなど幅広く活動しています。プログラムはクラリネットのために書かれた曲を中心に、ピアニストの天野圭子さんとピッタリ息のあった演奏を披露。サイズの違う大小4種類のクラリネットを使い分けながら、普段ソロであまり聞くことのないクラリネットが持つ楽器の魅力を存分に引き出す演奏となり、ほぼ満員となった聴衆を魅了しました。



吉田さや佳「クラリネットリサイタル mit innigkeit」演奏風景
会場：ザ・フェニックスホール